

平成 22 年 11 月 16 日

福島大学ふくしまサイエンスぶらっとフォーム(spff)事業が サイエンスアゴラ 2011 に出展採択決定！！

【概要】

独立行政法人科学技術振興機構 JST が主催する国内最大の科学イベント、「サイエンスアゴラ 2011」(第 6 回目)に福島大学が事務局を務める、県内産官学民の連携プロジェクト「ふくしまサイエンスぶらっとフォーム spff」のブースが出展することになりました。また同会場で開催される総括セッションには本学、岡田努准教授がパネリストとして登壇し、本県の理科教育・科学普及活動の現状と課題を訴えます。

1. サイエンスアゴラ (科学の広場の意味) とは？

独立行政法人科学技術振興機構 JST の主催で 2006 年に「広い意味でのサイエンスの専門家はもちろん、あらゆる分野の専門家、そして大人から子どもまで、多様な人々が一堂に会してサイエンスコミュニケーション活動を展開する場であり、それぞれの立場を超えてコミュニケーションを深め」ることを目的にスタートしました。東京お台場の日本科学未来館をメイン会場に全国から 200 件の様々な個人・団体が参加する日本最大の科学イベントです。今年度のテーマは・・・

「新たな科学のタネをまこう - 震災からの再生をめざして - 」

参照 <http://www.scienceagora.org/>

2. 福島大学 ふくしまサイエンスぶらっとフォーム (spff) が出展採択！

出展企画：spff ふくしま支援プロジェクト ひろげよう！科学のわ！

内 容：spff が、震災直後から実施してきた科学コミュニケーション活動の取り組みや、福島の実状などを紹介し、サイエンスアゴラ 2011 参加者に対し今後の本県への同活動へのイベント参加・教材提供等での支援を訴えます。今年度から来年度以降に向けて本県へ科学イベントや理科教育の継続的な支援を呼びかけます。

参 加 者：福島大学、郡山市ふれあい科学館、ムシテックワールド、福島県立図書館、小中高校教員、個人会員、本学学生 (16 名)

3. 総括セッションに本学 岡田努准教授がパネリストとして参加！

日時：11 月 20 日 (日) 15:15-17:00

総括セッション「新たな科学のタネのまき方」

(お問い合わせ先)
岡田努研究室 (総合教育研究センター内)
TEL：024-548-5242
E-mail：tokada@educ.fukushima-u.ac.jp
ふくしまサイエンスぶらっとフォーム事務局
(共生システム理工学類棟内)
TEL：024-548-5347

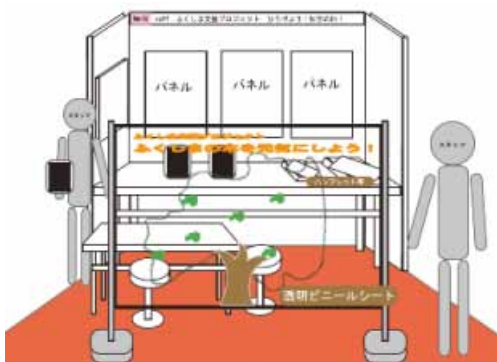
【参考資料 1】

2. 福島大学 ふくしまサイエンスぶらっとフォーム (spff) が出展採択！

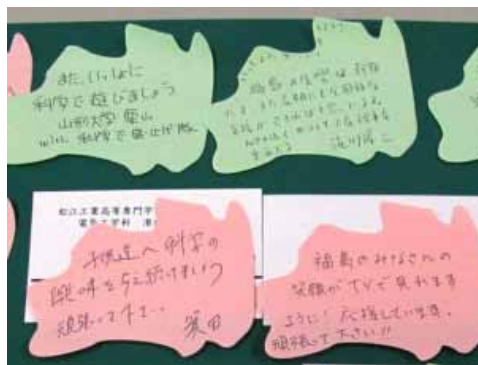
出展企画：spff ふくしま支援プロジェクト ひろげよう！科学のわ！

概要：spff が、震災直後から実施してきた科学コミュニケーション活動の取り組みや、福島の現状などを紹介し、サイエンスアゴラ 2011 参加者に対し今後の本県への同活動へのイベント参加・教材提供等での支援を訴えます。今年度から来年度以降に向けて本県へ科学イベントや理科教育の継続的な支援を呼びかけます。

参加者：福島大学、郡山市ふれあい科学館、ムジックワールド、福島県立図書館、
小中高校教員、個人会員、本学学生 (16 名)



spff ブースのイメージ



福島県の形をした付箋紙にメッセージを！

3. 総括セッションに本学 岡田努准教授がパネリストとして参加！

総括セッション「新たな科学のタネのまき方」

日時：11月20日(日) 15:15-17:00 会場：日本科学未来館 7階 みらいCAN ホール

内容：サイエンスアゴラ 2011 で論じ合われたことを踏まえ、これからの科学コミュニケーションのあり方を論じ合います。科学コミュニケーションは多様であるべきであり、公式はありません。しかし、理念や意識は共有できるはずです。総括セッションでは、それぞれ独自の立ち位置から実践・研究活動を展開しているパネリストを迎え、今後、科学コミュニケーションが目指すべき方向を探ります。(以上「サイエンスアゴラ開催趣旨より」)

私は、ふくしまの科学教育、理科教育、科学普及活動の現状と今後の課題等について報告し今後の支援の在り方や科学コミュニケーションの在り方について論じます。

パネリスト

榎木英介 (サイエンス・サポート・アソシエーション代表)

岡田努 (福島大学准教授、ふくしまサイエンスぶらっとフォーム事務局)

平川秀幸 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター准教授)

横山広美 (東京大学大学院理学系研究科准教授)

長神風二 (東北大学脳科学グローバル COE 特任准教授)

元村有希子 (毎日新聞社科学環境部副部長)

モデレーター

縣秀彦 (国立天文台普及室長)

プレス発表資料 4

【参考資料 2】

s p f f の震災直後後の避難所訪問活動 (3月30日～7月 20数件)

科学教室・施設開放等の実施期間

福島大学・ムシテックワールド・郡山市ふれあい科学館・福島県立博物館
磐梯山噴火記念館

協力：(独)産業技術総合研究所関西センター・同 水素センター

大阪科学技術センター・大阪府豊中市教育委員会

福島県農業総合センター・福島県立図書館

訪問先：ビッグパレットふくしま・須賀川アリーナ・福島県農業総合センター

福島市立佐原小学校・福島県立福島高校・福島市産業交流プラザ

ムシテックワールド・郡山市ふれあい科学館・福島大学体育館

宮城県東松島市図書館・裏磐梯猫魔ホテル・伊達市公民館

		
県農業総合センター	伊達市保原中央公民館	福島大学体育館
		
福島市産業交流プラザ	ビッグパレットふくしま	県農業総合センター
		
福島市立佐原小学校	須賀川市ムシテックワールド	裏磐梯猫魔ホテル